

檄

衆議院選挙終盤にむけて

全推薦候補の勝利をめざして、最後まで総力をあげて闘い抜こう

第50回衆議院選挙も残すところ1週間を切り、終盤戦に突入した。
自治労組織内・政策協力候補の激しい闘いが続いている。

現時点でマスコミが伝える選挙情勢によると、裏金事件の逆風を受ける自民党は公示前勢力から減らす可能性があるが、石破首相が勝敗ラインとしていた与党で過半数(233議席)をめぐり、与野党の攻防が続いている。

一方、立憲民主党は公示前勢力の98議席を超える公算が大きく、無党派層でも支持が拡大しつつあるとされるが楽観できない。万が一、与党での過半数を許せば、石破政権は「選挙で信任を得た」として、「政治とカネ」「旧統一教会」などの疑惑を解明せず、数の力で憲法改正や防衛力強化など安全保障政策を推し進めようとするだろう。

自治労組合員の生活と権利を守り、日本の政治を誤った方向に行かせないためにも、与党の勝利を阻止しなくてはならない。立憲民主党を中心とした野党勢力の拡大をはかり、今後、政権交代を展望するうえで、1人でも多くの自治労組織内・政策協力候補、そして推薦候補の勝利を勝ち取る必要がある。

厳しい状況ではあるが、衆議院選挙の世論調査をみても約3割の有権者は投票先が未定であり、選挙闘争のヤマ場はこれからである。すべての組合執行部は、再度、全組合員に声をかけ、組合員一人ひとりが家族、友人・知人に声をかけよう。「わたしプラスもう1票」が積み重なれば、必ず政治は変わる。この衆議院選挙で「信頼できる政治」を取り戻す一歩にしよう。また、選挙区によっては自治労の推薦候補がない地域もあるが、比例代表の投票もある。立憲民主党の議席のさらなる上積みをめざし、必ず、選挙に行くことを再度徹底するとともに、すべての自治労組織内・政策協力候補と、推薦候補の必勝にむけて、一丸となって最後の最後まで総力をあげて闘い抜こう。

2024年10月21日

全日本自治団体労働組合
中央執行委員長 石上 千博